

# 車いす乗降問題めぐり メーカー交え活発議論

東京ハンディキャブ連 JPNタクでシンポ

パネラーは(正面左から)トヨタの粥川氏、全タク連・熊谷氏、全自交・石橋氏、DPI日本・土屋氏。時折、傍聴者との間で激しいやり取りも見られた(9日、飯田橋)



東京ハンディキャブ連絡会(重枝孝和代表)は9日、飯田橋セントラルプラザで、トヨタのユニバーサル

デザイン(UD)タクシー(重枝孝和代表)は9日、飯田橋セントラルプラザ(JPN TAXI)を題材に「移送サービスのついで2019」シンポジウムを開いた。障害当事者、タクシー業界労使、トヨタが一堂に会し、車いす利用者の乗降問題を中心に活発な議論が交わされた。電動車いすの重量を念頭に「スロープの耐荷重を300キにしている」との要望が出された。

答えた。東洋大学の川内美彦ライフデザイン学部教授は「乗車拒否は障害者差別解消法に抵触する」と苦言を呈した。

「トヨタ自動車の粥川氏は、トヨタエンジニア、全国ハイヤー・タクシー連合会の熊谷敦夫事務部長、全自交富山地連の石橋剛委員長、DPI(障害者インタナショナル)日本会議・パリアフリー部会メンバーの土屋峰和氏。連絡会の伊藤正章事務局長が司会を務めた。

粥川氏は開発の経緯や車いす問題を背景としたスロープ板の改良について解説し、「JPNタクシーは新しいチャレンジ。今後も改善を続ける」と語った。熊谷氏は業界のユニバーサルドライブ研修(UD研修)を挙げ、「実車を用いた研修を定期的に行うよう周知していく」と話した。

スロープ板が雨に濡れ、滑って車いすを乗せられなかったケースが示され、粥川氏は「スロープに突起は付いているが、革靴で(靴底が)つるつるだと滑る」とした。UD認定マークを車体に貼っていないことを理由に乗車拒否に至った事例が明かされ、批判が集中した。

登壇した

傍聴席から、電動車いすでJPNタクシーに100回以上乗ったというNPO日本パリアフリー協会の今福義明理事が発言。「スロープの耐荷重は200キだが、鉄道もバスも300キ。来年の東京五輪・パラリンピックで海外の人がたくさん来る。次の改良で確保を」と要望した。粥川氏は「対応できるように進めたい」と

氏は「乗務員が積極的になるよう、公的なインセンティブ(動機付け)があれば。JPNタクシーは出たばかり。みんなで協力して育てていきたい」とまとめた。

石橋氏は「路上で乗せるのは難しい。予約で使ってもらいたい。乗降時間のロスは(歩合制が基本のため)賃金の減少につながる。不利益にならないように」と訴

東京ハンディキャブ連絡会は昨年9月の定例総会で代表者を交代。新代表の重枝氏は「連絡会の存在意義はある。収支の改善を図りたい」と本紙に話した。

東京ハンディキャブ連絡会は昨年9月の定例総会で代表者を交代。新代表の重枝氏は「連絡会の存在意義はある。収支の改善を図りたい」と本紙に話した。